

特集 自慢のメカニック【関東】

技術高度化で高まる重要性

整備人材 確保するために

休日増、賃上げ、働く環境改善…



新車ディーラーにおいて、今後の経営の鍵を握るのはサービス部門とも言われている。2025年度(25年4月～26年3月)の国内新車販売台数は、前年度比0.9%減の453万3782台。ピーク時だった1990年の約778万台から4割以上減少しており、今後も減少していく見方が強い。自動車の長期利用が進み、26年3月末時点の乗用車(軽自動車を除く)の平均車齢は9.44年と年々伸びている。さらに、新型車のモデルサイクルの長期化も相まって新車ディーラーにおけるサービスの重要性は高まるばかりだ。

採用・離職防止 広がる待遇改善

社会インフラを支える職種エッセンシャルワーカーとして注目を集める自動車整備士。新車ディーラーを中心に自動車販売店の収益構造の変化により、自動車整備士の重要性は増す一方で、整備士不足は解消するどころか深刻の一途をたどっている。顧客を囲い込むために整備士を囲い込む必要性を説く声も高まっており、整備士の職場環境や待遇の改善などが進められている。



が高度化していることからより高い技術力が求められている。少子化もあり、自動車専門学校への進学率(留學生除く)は減少傾向で、特定技能や技能実習(27年4月から育成就労)による外国人採用に活路を見出しているのが現状だ。

そのため、自動車整備士の離職防止や採用へのアピールに向け、待遇改善に取り組みする企業が増えている。賃上げや年間休日増加のほか、工程管理による残業の抑制や冷暖房完備、企業負担による作業服のクリーニングといったように、可能な限り現場の要望に添える企業が増えている。また、けがをせず、長く働いてもらうための、作業の負担軽減につながる整備機器などの導入にも積極的で、昔の自動車整備士と



してイメージされる、いわゆる「3K(きつい、汚い、危険)」からの脱却が図られている。

整備士は、一度資格を取得すれば、高確率で同じ業種に転職できる職業でもある。自動車整備士の転職市場は閉鎖的で、



異業種など未経験者が入り込む割合が少なく、国家資格を持つ自動車整備士が業界内で移籍している環境が構築されている。

これまでは、現場や待遇、人間関係などに不満があるなどマイナス要素を起因とした転職が主だったが、今後はより待遇のいい環境を求めて積極的な転職を求めることも予想され、整備士を取り巻く環境はさらに改善が進むとみられている。

コミュニケーション能力を生かして



にも力を注ぐ。外国籍のメカニックとは日頃から積極的なコミュニケーションを取り、一方的に指示するのではなく、自ら考え成長できるよう見守ることも大切としている。周囲からは「困っている後輩にいち早く気づき、サポートしてくれる」と信頼も厚い。

日産東京

杉並店 サービス課 テクニカルスタッフ 手島 敬介さん(27歳、埼玉県)

日産東京(宗形慎一郎社長)の手島敬介さんが自動車整備士を志したきっかけは、車好きの友人の影響だった。進学した東京自動車大学校在学中にはR32型「スカイライン」を所有。好きな車に携わりたいという思いから、日産プリンス東京(現日産東京)への入社を決めた。

転機が訪れたのは入社から6、7年が経った頃だった。当

「プロフィール」現在の東京自動車大学校を卒業し、2000年4月に日産プリンス東京(現日産東京)に入社。休日は、父親から譲り受けた「ティアナ」でドライブに出かける。東京都板橋区出身。46歳。

【会社概要】▽設立＝2021年7月▽本社所在地＝東京都品川区西五反田4-32-1▽代表者＝宗形慎一郎社長▽社員数＝2431人▽拠点数＝新車92、中古車18

トヨタモビリティ東京

風通し良い職場が高い整備品質に



また、社内技術コンクールの出場経験を持つ。「これまでの作業方法では無駄が多かったが、基本を再度確認することができた。改めて自分自身の作業を見直すきっかけとなった」と話す。今年4月からはレクサス西東京の配属となり、中間検査や完成検査のほか後輩スタッフの作業確認も担当。工場の雰囲気づくりも重視しており、「風通しの良い職場雰囲気づくりが高い整備品質の提供につながる」と話す。現在、G1(旧トヨタ検定1級)を取得し、「将来的には『トップクルー』になりたい」と意気込む。

トヨタモビリティ東京(赤尾虎巳社長)の小林永基さんは、出身地の福島県出身で、入社後は、板金塗装部門(BP)を併設していたため、BP部門のスタッフと話すうちに挑戦してみたいと思うようになっていった。

その後BP部門への異動を希望し、BP技術を学ぶための研修期間を経てBPセンター(BPC)に配属となった。これまでに東雲PCや立野BPC、深川BPCなどで勤務した。このように研修をすればお客さまに喜ばれるかを日々考えるなど作業に取り組みできた。現在、現場では、整備技術だけでなくレクサスブランドの一員としての心構えを

【会社概要】▽設立＝2000年8月トヨタアドミニス東京。19年4月社名変更▽本社所在地＝東京都港区芝浦4-8-3▽代表者＝赤尾虎巳社長▽従業員数＝約7800人▽拠点数＝トヨタ店舗169新車・中古車・レクサス店舗25 GR Garages

言語化難しいBP指導 工夫しながら



＜プロフィール＞トヨタ東京自動車大学校自動車整備科卒、2004年東京トヨペット(現トヨタモビリティ東京)入社。趣味はサッカー。BPエンジニアの最高峰、「BP TAKUMI」を有する。福島県南相馬市出身。43歳。

＜プロフィール＞トヨタ東京自動車大学校1級自動車科卒、2021年4月入社。趣味は旅行。鹿児島県徳島市出身。27歳。

レクサス小石川

**テクニカルスタッフ
高橋 煌葵さん**
(たかはし こうき)

レクサス小石川(武蔵正己社長で若手メカニックとして活躍する高橋煌葵さんは入社5年目。定期検や車検をはじめ、さまざまな整備作業に積極的に取り組み、さまざまな仕事にも真剣な姿勢で向き合っている。先輩から技術や知識を吸収しながら日々、整備士としての技術力向上に励んでいる。



積極的姿勢で目の前の仕事を懸命に

「最初から車が好きだったわけではない。高校生の頃、友人に誘われてスーパーカーの撮影に出かける機会が増えたことをきっかけに、次第にクルマの魅力に引き込まれていった。」

高校卒業後の進路を考える中で、「自動車整備士になりたい」という思いが芽生え、トヨタ車の整備技術を専門的に学べるトヨタ東京自動車学校へ進学した。就職活動では「レクサス車の整備に携わりたい」という思いから、レクサス小石川を志望した。トヨタブランドも扱う販売会社ではなく、必ずしもレクサス店舗



入社後は、先輩のアドバイスを受けながら、一つひとつ新しい作業を身に付けてきた。経験のない仕事にも積極的に挑戦し、着実に対応できる領域を広げている。

【会社概要】 ▽設立＝2004年10月 ▽本社所在地＝東京都文京区小日向4-1-1 ▽代表者＝武蔵正己社長 ▽社員数＝53人 ▽拠点数＝新車1、中古車1

トヨタS&D西東京

**松枝橋店
ライオンモビリティ
伊達 賢人さん**
(だて けん)

トヨタS&D西東京(田村勝彦社長)の伊達賢人さんは「お客さまに安心、安全をお届け、信頼を得られる整備士を目指したい」と話す。笑顔で帰ってもらうような心掛けを。笑顔で帰ってもらうような心掛けを。



限られた時間で効率性と正確さ両立

あった。その後、学校に入学し、入学を決めた。卒業後の就職先としてトヨタS&D西東京を選んだ。地域密着で事業展開しているところが魅力的だった。就職してからは「慣れないことも多く正直最初は大変だった」と振り返る。学校と実際の現場との違いにギャップを感じたこともあった。中でも、社会に出てからは時間に対する価値観が変わったという。「お客さまをお待たせしないよう、効率良く作業することも必要だと日々感じている」と話す。限られた時間内で、効率性と正確さを両立させることに難しさを感じている。



【会社概要】 ▽設立＝1960年10月 ▽本社所在地＝東京都福生市志茂215 ▽代表者＝田村勝彦社長 ▽従業員数＝1091人 ▽拠点数＝トヨタ48、U-Car10、レクサス4、ダイハツ1

ホンダ東京西

**福生店 サービス
佐藤 瑞季さん**
(さとう みづき)

両親がクルマ好きだったことがきっかけで自動車整備士を目指した。自動車関連の仕事に就くことで両親を喜ばせたいという思いがあった。ホンダテクニカルカレッジ関東ニ入学し、自動車整備について学んだ。卒業後の就職先については、「生まれ育った地域に貢献したい」と考え、多摩エリアで、地元密着で展開するホンダ東京西(加藤裕之社長)



やりがいには顧客からの感謝の言葉

への入社を決めた。入社当初は、主に点検や車検を中心に担当した。自ら志望して工場長との相談の上で、長期で預かった車両の故障診断も担当した。自ら志望すればさまざまなことにチャレンジできる環境も整っているという。

仕事のやりがいは、「お客さまから『ありがとう』と言っていたこと」と話す。顧客満足(CS)と高い評価を受け、時にはより強くうれしきを感じるといふ。また、会社の良いところ

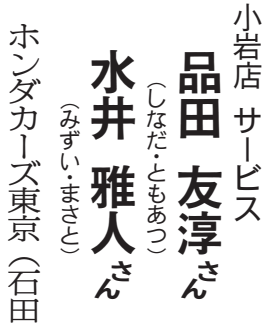


【会社概要】 ▽設立＝1985年7月 ▽本社所在地＝東京都福生市武蔵野台2-34-6 ▽代表者＝加藤裕之社長 ▽社員数＝224人 ▽拠点数＝新車7、中古車1

ホンダカーズ東京

**小岩店 サービス
品田 友淳さん**
(しなだ ともつ)

ホンダカーズ東京(石田博社長)の品田友淳さんは、小岩店(東京都江戸川区)に所属し、サービスフロントを担当している。今夏には、品田さんが係長に、水井さんがチーフから主事に昇格した。2人は、サービス部門を中心



店舗全体を意識して動く運営の中核

品田さんは、水元店と東陽町店での勤務を経て小岩店に配属となった。東陽町店時代からサービスフロント業務専門で担当するようになった。サービスフロントを専門で見るようになった。品田さんは「以前は自分の作業範囲でしか考えていなかったが、店舗全体のオペレーションを意識して行動するようになった」と話す。品田さんは「以前は自分の作業範囲でしか考えていなかったが、店舗全体のオペレーションを意識して行動するようになった」と話す。



【会社概要】 ▽設立＝2008年10月 ▽本社所在地＝東京都台東区上野5-14-9 ▽代表者＝石田博社長 ▽社員数＝237人 ▽拠点数＝新車12、中古車1

故障診断を通じての原因究明が喜び

大坂 和厚さん
(おおさか かつひろ)

ホンダモビリティ南関東(高橋宗一郎社長)で働く大坂和厚さんは、今年の11月に行われるホンダ四輪サービス技術コンクールの「フロントアドバイザ(F/A)コース」に同社の代表選手として出場する。

ホンダモビリティ南関東

**ホンダカーズ横浜
相模原南店 サービス
下町 亮斗さん**
(しもまち りょうと)

中学生、高校生の頃からロボットのよう機械に興味があり、自動車整備士を目指した。実家の車がホンダ車だったこともあり、ホンダテクニカルカレッジ関東に入社した。学校見学した時の雰囲気の良い決め手の一つだったという。一時、大学への進学を勧める父親から反対も受けたが、現在は自動車整備士として働く現状を見て理解してくれている。

学校卒業後は、社員教育に力を入れているホンダカーズ横浜(現ホンダモビリティ南関東)に入社した。志望理由について、下町亮斗さんは「説明会などを通じて、成長を実感できる職場環境だと感じた」と話す。ホンダ直営の会社であることから安定した経営基盤や給与、年間休日なども魅力的だったとしている。初任地では、お客さまに対する姿勢を学んだ。「例えば、洗車時に『お客さまの目に届くように場所も丁寧に上げる』と教わった」と話す。以来、お客さまに寄り添



お客さまに寄り添った接客や作業

たことがきっかけで整備士を目指すことになった。大坂さんは当時のホンダカーズ千葉に入社した。実家でホンダ車に長く乗っていたこともあり、ホンダ車に長く入力があつたため、同社に入社した。メーカー直営だったことも後押しとなった。

都町店や酒々井店などで勤務し、2021年から成



田町前店で配属となった。エンジンやミッションの交換といった整備も担当し、幅広く経験を積んできた。「故障診断を通じて原因を究明することにやりがいを感じている」と話す。現在はフロント業務を担当する。

【プロフィール】 千葉県自動車大学校卒、2017年4月入社。趣味は、洗車と料理。料理は洋食をつくるのが多く、ビーフシチューも得意。千葉県旭市出身、32歳。



【プロフィール】 ホンダテクニカルカレッジ関東一級自動車整備学科卒、2020年4月にホンダカーズ横浜(現ホンダモビリティ南関東)入社。趣味はゴルフ。さいたま市出身、27歳。

いすゞ自動車首都圏

＜プロフィール＞▽栗山さん 東京工業専門学校卒、1990年自入社。趣味は、キャンプとゴルフ。東京都板橋区出身。52歳▽若宮さん 東京自動車大学1級自動車整備士コース卒、2012年4月入社。趣味はキャンプ。千葉県柏市出身。37歳▽関根さん 東京自動車大学卒業、2003年4月入社。趣味はバイク。神奈川県小田原市出身。35歳

いすゞ自動車の世界一の整備士を決める「いすゞワールドサービス技能コンテスト(通称『イーグランプリ』)」にいすゞ自動車首都圏の社員が日本代表選手として参加する。イーグランプリは、国を代表するメカニックとコンチが世界一を目指す技術と知識を磨き、競い合うことで、いすゞグループ全体のサービスレベル向上に貢献する大会だ。同社として2017年以降の世界大会への出場となる。過去に出場した17年と13年の大会は優勝を果たしている。今年同社



「イーグランプリ」に出場

神奈川西支社厚木支店
厚木サービスセンター
エンジニア
関根 一也さん
(せきね かずや)



サービス部品部門
サービス技術部
技術課 係長
若宮 豊さん
(わかみや ゆたか)



サービス部品部門
サービス技術部
部長
栗山 道和さん
(くりやま みちかず)



入念な準備で「世界一」狙う最強布陣

は設立80周年の節目を迎え、社内の期待を背負って10月27・28日に開催予定の大会に臨む。代表チームは、関根一也さんと若宮豊さん、栗山道とさんの3人で構成する。栗山さんがコーチとなり、関根さん、若宮さんに技術的なアドバイスを任せている。選手2人は、栗山さんの指導の下で大会に向けて準備している。関根さんは、3月まで厚木支店の工場に勤めていた。4月からは若宮さんとともに研修を受けるため、



＜会社概要＞ ▽設立＝1946年11月 ▽本社所在地＝東京都江東区新木場1-18-14 ▽代表者＝芝田隆一 社長 ▽従業員数＝約2千人 ▽拠点数＝サービスセンター・工場数34

車検館

＜プロフィール＞日産横浜自動車大学1級自動車学科卒、2022年1月入社。休日はゴルフや食歩きを過ごす。横浜市出身。38歳

原田 貴章さん
(はらだ たかあき)



分かりやすい安心の説明力で信頼

「説明が分かりやすく安心できる」と顧客からの信頼も厚い。現場では保安基準の適合を厳正にチェックする。不適合箇所があれば、ユーザーに配慮した言葉選びで、納得いくように提案する。「お客さまに安全・安心に乗ってもらうことが整備士の使命」と語る。今後、目標としては、さらなる作業スピードと技術向上に励み、将来はチーフや工場長として店舗をけん引していく存在を目指している。

＜会社概要＞ ▽設立＝2002年10月 ▽本社所在地＝東京都八王子市堀之内3-27 ▽代表者＝佐藤啓介 社長 ▽社員数＝100人 ▽拠点数＝首都圏を中心に13、内直営店9 (東京都8、神奈川県1)

確実に仕事こなし整備の道極めたい



横田 祥弘さん
(よこた しょうひろ)

幼少期からクルマのシミュレーションゲーム「グランツーリスモ」を通じて自動車整備に興味を持っていて、関東マツダの横田祥弘さん。実車ではなく、ゲームがきっかけでクルマが好きになったという。このため高校も自動車科がある学校に進学し、高校卒業後も東京工科自動車大学校に進学した。卒業後の就職先として関東マツダサービスエンジニア(よこたしょうひろ)に決めた。理由は、当時の採用担当者の人柄や学校内での

＜会社概要＞ ▽設立＝1965年4月 ▽本社所在地＝東京都板橋区大山町3-12 ▽代表者＝東堂一義 社長 ▽従業員数＝2170人 ▽拠点数＝98

シュテルン世田谷

＜プロフィール＞静岡工科自動車大学校ファーストクラス研究科卒、2001年4月入社。休日は、所有する1990年代に製造された車でドライブに出かける。静岡市出身。33歳

長谷川 将さん
(はせがわ しょう)



シュテルン世田谷(板東徹行社長)の長谷川将さんは、兄がクルマ好きだったことがきっかけで自動車整備士を目指した。高校は、自動車整備科のある学校に進学し、自動車整備士3級を取得した。その後は、静岡工科自動車大学校に入り、自動車整備士2級にステップアップした。卒業後はシュテルン世田谷に入った。

＜会社概要＞ ▽設立＝1988年6月 ▽本社所在地＝東京都町田市鶴間7-2-1 ▽代表者＝板東徹行 社長 ▽社員数＝641人 ▽拠点数＝17

「国際認定故障整備士」取得に向けて

会社を選んだ理由について「たまたま見つけた求人がきつかけだったが、総合的に判断して入社を決めた」と話す。最初の配属は、メルセデス・ベンツ東名横浜だった。新卒から約6年を同拠点で過ごした。「当時先輩にいろいろなることを教えていただいた。良い経験となった」と振り返る。当初は車検や点検が主に担当していたが、経験を積むうちに整備も任せてもらえるようになった。自分自身でエンジンを分解し、内部の構造を理解することができたという。「自分で作業したため本当に勉強になった」と語る。

スポーツカーを身近に感じながら



青梅野上店
サービスエンジニア
小仁所 圭太さん
(おにむら けいた)

アニメの「頭文字D(イニシャルD)」が好きで、友人の誘いで出向いた自動車大学校のオープンキャンパスがきっかけで自動車整備士の道に進むことを決めた。東京工科自動車大学校中野校に通い、整備士の基礎知識を習得した。その後の就職先の選択では、関東マツダへの入社を決めた。理由について「(当時の採用担当者の人柄や学校内での出張授業に興味を引かれた)」と話す。入社後は、1年の研修を受けた。期間中には、稲城店や福生店での勤務し、先輩の動きを観察しながら自身の知識として落とし込んでいった。研修期間を経て、最終的には青梅野上店の配属となった。本配属となったからは点検や車検を主に担当している。関東マツダに入社して良かった点は、自身が好きな「ロードスター」に触れる機会があることだという。

＜プロフィール＞東京工科自動車大学校中野校1級自動車整備科卒、2024年4月入社。趣味は、釣りやゴルフなど。東京都武蔵村山市出身、25歳。

スズキ自販神奈川

「会社説明会に参加した際、明るく和気あいあいとした職場の雰囲気と、エンジンのオーバードライブといった重宝が経験できることが決め手となり、入社した。入社後、今の職場に配属され、先輩の指導の下、点検・車検作業に従事し、その後、スズキアリーナ高津に異動。現在は点検・車検整備を中心に故障診断や預かり整備の仕事など

スズキアリーナ高津
サービス
出口 隼光さん
(てんしはなみ)



先輩に気軽に聞ける雰囲気づくり

「仕事で一番心がけていることは、職場の雰囲気づくり。」「分からないことがあれば、先輩に気軽に聞ける雰囲気づくりに努めている」と率先して先輩や後輩に声をかけ、コミュニケーションを活発に行っている。また「先輩に整備作業を教えるときは作業手順だけではなく、この整備がなぜ必要なのかを理解させることに重点を置いている。このことでお客さまへの作業内容の説明に厚みを持たせることができ、信頼にもつながる」と後輩へ



【会社概要】▽設立＝1969年7月11日▽本社所在地＝横浜市保土ヶ谷区狩場町169-6▽代表者＝田中章泰社長▽社員数＝689人▽拠点数＝新車22、中古車6

ホンダカーズ中央神奈川

鎌倉店
フロントアドバイザー
波田野 竣介さん
(はたのしゅんすけ)



経験を踏まえて分かりやすい指導

今年7月に開催された「ホンダ四輪サービス技術コンクール南関東ブロック大会」のフロントアドバイザー（FA）コースに出場し、優秀賞を獲得。11月に開催される全国大会出場の切符を手に入れた。「全国大会では最優秀賞を獲得したい」と意気込む。入社後、最初に配属された辻店で先輩から点検と車検整備をマンツーマンで指導を受け、仕事を覚えた。また2級自動車整備士の資格取得に向け、仕事が終わってから毎日勉強に勤しんだ。「分からないことを先輩から丁寧に教えてもらい、取ることができた」。現在は1級整備士の資格を取るため、奮闘中だ。辻店から異動して6年



【会社概要】設立＝1969年6月19日▽本社所在地＝神奈川県大和市深見3591-2▽代表者＝新海克巳社長▽社員数＝551人（パート・アルバイト含む）▽拠点数＝新車22、中古車3、サービスセンター1

スバル北信越

【会社概要】▽設立＝2006年4月▽本社所在地＝新潟県新潟市西區山田307番地▽代表者＝小島敦代表取締役社長▽社員数＝846人▽拠点数＝新車販売店22店／中古車販売店9店／新車・中古車販売店8店

スバル北信越（小島敦社長、新潟市西區）は社内メカニックチーム「6STARS」のシックススターを立ち上げた。現役レーシングドライバーの久保渡太郎選手が代表監督を務める「ROBOT RACING（ロボットレーシング）」のレーシングチームの整備を同チームが手掛ける。メカニックは、北信越エリア（新潟、長野、石川、富山、福井）の店舗から選抜した実績豊富なベテラン3人、若手のルーキー3人の計6人体制を整えた。

レース車両の整備を支える6人



レースに向けた研修



レース専用で製作したメカニックサイン

自慢のメカニックを紹介します！



関 菜叶さん
唯一の女性整備士、最年少参加としてレースに臨む。
＜プロフィール＞松本情報工科専門学校自動車整備学科卒、福岡県久留米市出身。



石田 浩徳さん
2025年スバル全国整備技能コンテスト優勝の経歴を持つベテラン。
＜プロフィール＞群馬自動車大学校2級自動車整備科卒、1983年6月生まれ、愛知県あま市出身。

「6STARS」始動



「体験で心を動かし、選ばれ続ける会社」を目指す取り組み

「体験で心を動かし、選ばれ続ける会社」を目指す取り組み。組織的な技術がタイムに直結。チーム発足は、同社が展開する「体験で心を動かす」をテーマにした超ホク心プロジェクトの一環。レースを通じてスバルブランドのPRや整備士の人財育成、採用力強化が狙い。レース現場で実戦経験を積むことで、若手とベテランが世代を超えて技術を学び合う場とした。普段は別々の店舗で勤務し、接点のなかった6人がチームとして技術を磨く点も特徴だ。

ベテランもルーキーも世代を超えて

左からメカニックのベテランの駒形光司さんと、若手村澤平みねむりさん、うへいさん、石田浩徳さん、ひろのりさん、ルーキーの羽生康介さん（はしこうすけ）さん。関菜叶さん、まかなさん、萩原望恵さん、おきほらさん、のぞみさん。

一丸となってチーム力高める

レースに先立ち、メカニック6人の初顔合わせとなるチーム結成式と整備研修を実施。レース整備の専門スタッフを講師に招き、エア抜きやミッショントラブル、前後輪のホイールアライメント調整、ブレーキパッド交換など、実践的な整備技術を学んだ。

今回ルーキー枠として参加した、長野若里店に勤務する関菜叶さんは「レースメカニックの経験はないが、チームの力になれるよう頑張りたい。使ったことがない工具などを使用し、難しいなという印象。ベテランの人に教わりながら作業していきたい。狭い箇所など、男性より小柄な分、違った形で活躍したい。また、整備士になったきっかけについて



チームを率いる現役レーサーの久保監督

山梨ダイハツ



コクさん(左)と
タオさん

車検・点検などに活躍する重要戦力

甲府店
サービススタッフ
・コクさん
・タオさん
グエン・ヴァン

山梨ダイハツ(井倉儀信社長)の甲府店サービススタッフとして車検・点検などの業務に取り組むコクさんとタオさんは、トヨタ東京大学校以来の親友同士。二人は外国人整備士として国家2級整備士資格とともに日本語能力試験(JLPT)N2(中上級レベル)を有し、同社の重要な戦力として活躍している。



山梨で働きたいとコクさんと一緒に入社。職場のスタッフはみんな親切で、大学校で習得した整備知識や技術を活かしながら、仕事を通して自身が成長できている。

同社は人材不足の面から外国人整備士を重要視し、現在6人が働いている。就活はもともと人財育成の面でも二人の先輩をはじめ、叔父が山梨県内で自動車販売・整備業を経営している縁で来県。就職先について、明るく働きやすい雰囲気を感じられる職場で、同社を選んだ。理想的な職場だという。

一方タオさんは、都会の喧騒より自然が感じられる環境に憧れていた。2026年トヨタ東京大学校自動車整備科卒業、4月入社。ボルシェやコペンなどスポーツカーが好きで、旅行も好きで、最近では本棚でキャンプを始めた。ベトナム国ハノイ市出身、24歳。タオさんは、2026年トヨタ東京大学校自動車整備科卒業、4月入社。FCバルセロナを応援し、サッカーは観戦もするのを楽しんでいる。会社のフットサル愛好会にも興味あり。ベトナム国ハノイ市出身、23歳。

【会社概要】 設立＝1958年5月 本社＝山梨県甲府市横根町48 代表者＝井倉儀信社長 従業員数＝168人(2026年7月現在) 拠点数＝7、部品センター1、河口湖テクニカルセンター1

ナオイオート



水戸ひたちなか店
メカニック
グエン・ヴァン
ファン

ナオイオート水戸ひたちなか店のグエン・ヴァン・ファンさんは、2018年8月に自動車整備の技能実習生としてベトナムから来日し、今は特定技能1号で整備に従事し、スキルを磨いている。



「日本でクルマの仕事を覚えたかった。日本の文化が素晴らしいと思う。来たことなどが来日した理由。整備工場ではベトナム人の先輩から教わり、スキルを身に付けた。日本語については「最初は覚えるのに苦労した」というが、今は問題なく受け答えができるまでに上達。整備と合わせてユーザーに交換部品の説明や提案を行う「現車プレゼンテーション」も担当している。

【プロフィール】 2018年8月に自動車整備の技能実習生として来日し、3年後に特定技能1号取得。趣味は旅行。ベトナム・ハノイ市出身、33歳。

【会社概要】 設立＝1977年6月 本社＝茨城県取手市680-1 代表者＝直井清正社長 社員数＝549人 拠点数＝車両販売事業部13、サービス事業部13、ボディショップ事業部6

国家資格も見据えて将来も日本で

車から母国語で整備方法を教わり、スキルを身に付けた。日本語については「最初は覚えるのに苦労した」というが、今は問題なく受け答えができるまでに上達。整備と合わせてユーザーに交換部品の説明や提案を行う「現車プレゼンテーション」も担当している。

「お客さまがクルマに安全に乗ってもらえるよう交換が必要な部品があれば、優先順位を考えながら提案している」と、状態を丁寧に伝えていく。お客さまから得る目標としており、「日本でずっと働きたい」と考えている。また、自動車整備士資格も国家3級2級の取得を見据えて勉強中だ。会社の中では後輩の技能実習生の指導役としても期待が寄せられており、活躍の場はますます広がっている。

ホンダカーズ茨城西

(セキショウホンダ)

日立中央店
サービス主任
砂川 秀平さん
(すなかわしゅうへい)



愛車のように整備も洗車も心込め

ホンダカーズ茨城西(セキショウホンダ)の砂川秀平さんは、物心がついた頃からクルマが好きで、「自動車に携わる仕事がしたい」と思うようになった。両親と訪れたホンダディーラーのメカニックがカッコよく、やりがいがあって、自分もメカニックを目指そうになった。ホンダテクニカルカレッジ



「お客さまのクルマを自分の愛車のように扱う」ことを心掛け、納車時の洗車も心を込めて行っている。入社10年目になり、今年7月にオープンした日立中央店ではピットリーダーを担当する。入庫車両の担当の割り振りや工場全体の進捗に目を配りながら、作業を進めている。メカニックのやりがいは「お客さまに喜んでもらえる。ありがたう」と言われたとき。大きな目標と捉えている。勢いには周囲の期待が膨らむ。

【プロフィール】 ホンダテクニカルカレッジ関東を卒業後、2017年4月入社。趣味は好きなアーティストのライブへ行くこと。茨城県日立市出身、32歳。

ホンダカーズ茨城西

(セキショウホンダ)



難易度が高いほど感じるやりがい

守谷店の
野中 嵩久さん
(のなかたかひさ)



「お客さまのクルマを自分の愛車のように扱う」ことを心掛け、納車時の洗車も心を込めて行っている。入社10年目になり、今年7月にオープンした日立中央店ではピットリーダーを担当する。入庫車両の担当の割り振りや工場全体の進捗に目を配りながら、作業を進めている。メカニックのやりがいは「お客さまに喜んでもらえる。ありがたう」と言われたとき。大きな目標と捉えている。勢いには周囲の期待が膨らむ。

【プロフィール】 東京自動車大学校を2008年3月卒業後、都内の国産車ディーラーなどの勤務を経て、24年6月に入社。19年には国家1級自動車整備士資格を取得。趣味はスポーツ、子どもと遊ぶこと。東京都足立区出身、41歳。

セキショウグループ

シュテルンつくば



後輩指導 相手に応じた教え方で

メルセデス・ベンツ
つくば
齊藤 晴波さん
(さいとうはるな)



「お客さまのクルマを自分の愛車のように扱う」ことを心掛け、納車時の洗車も心を込めて行っている。入社10年目になり、今年7月にオープンした日立中央店ではピットリーダーを担当する。入庫車両の担当の割り振りや工場全体の進捗に目を配りながら、作業を進めている。メカニックのやりがいは「お客さまに喜んでもらえる。ありがたう」と言われたとき。大きな目標と捉えている。勢いには周囲の期待が膨らむ。

【プロフィール】 群馬自動車大学校一級自動車整備科を卒業後、2024年4月入社。趣味はバス釣り。茨城県ひたちなか市出身、24歳。

ザルツブルグ・モーターズ

入社6年目で、ボルシェのメカニック(テクニシャン)として着々と力を付けている飯沼陸斗さん。親の影響で子どもの頃からクルマが好きで、クルマに関する仕事に就きたいと思うようになった。メカニックを目指した。茨城県内の自動車整備専門学校へ通い、2級整備士コースに加え、整備士スキルを磨くため



「お客さまのクルマを自分の愛車のように扱う」ことを心掛け、納車時の洗車も心を込めて行っている。入社10年目になり、今年7月にオープンした日立中央店ではピットリーダーを担当する。入庫車両の担当の割り振りや工場全体の進捗に目を配りながら、作業を進めている。メカニックのやりがいは「お客さまに喜んでもらえる。ありがたう」と言われたとき。大きな目標と捉えている。勢いには周囲の期待が膨らむ。

【プロフィール】 筑波研究学園専門学校自動車整備工学科の2級整備士コースと車体整備士専攻科を卒業後、2021年4月入社。趣味はドライブ、ツーリング。茨城県つくば市出身、26歳。

スピードよりも正確さを意識して

ボルシェセンター
つくば
飯沼 陸斗さん
(いぬま りくと)



車体整備士コースでも学んだ。就職先は、地元の輸入車ディーラーを探していた中で、一番魅力に感じたのがザルツブルグ・モーターズだった。「高級車でありスポーツカーのブランドに触れてみたい」と、会社見学で「職場の雰囲気やスキルが合う」という理由で決めた。当初から作業で意識してきたのは「スピードよりも正確さ」。国産車と比べて入庫台数の違いもあるが、「現場では量よりも質が重視されている」と話す。そうした仕事の進め方にもやりがいを感じている。

今後については「最新の技術には触れられるようになりたい」とし、ボルシェが認定するバッテリー電気自動車(BEV)を整備できる専門の資格取得にも意欲を示し、新しいことも前向きに捉えている。